

生きて、人間はどうやって

生かす時から人間は人間によって、虐待され、襲われ、毒を盛られ、絞め殺され、拷問され、町に火を放たれ、
プライドを奪われ、口を封じられ、裏切られ、かもられ、洗脳され続けてまいりました。
つまり人間が人間であることを忘れた時、人間は幸せな暮らしが送れるのです。
みなさん、決して忘れちゃいけませんよ、人間は悪事を働くことでしか幸せにはなれません。

生きてきたのか…

オルケスタ・リブレ plays 三文オペラ

■出演

オルケスタ・リブレ

Orquesta Libre

芳垣安洋 (ドラム)

青木タイセイ (トロンボーン)

塩谷博之 (クラリネット)

藤原大輔 (テナーサクソ)

渡辺隆雄 (トランペット)

ギデオンのジュークス (チューバ)

高良久美子 (ヴィブラフォン)

鈴木正人 (ベース)

椎谷 求 (ギター)

岡部洋一 (パーカッション)

柳原陽一郎 (歌)

神田京子 (講談)

松角洋平 (芝居)

■構成

高瀬久男 (文学座)

2015 **6.27** (土) 17:00

茨木クリエイティブセンター・センターホール

『オルケスタ・リブレ plays 三文オペラ』とは……。

音楽と歌と芝居の三つを軸にした音楽劇『三文オペラ』。階級社会や人間の欲望や偽善を風刺したこの物語、
 ここぞという場面では柳原陽一郎が日本語に訳した歌でメッセージを伝え、
 要所要所で松角洋平が登場人物を一人で何役も演じ分け、
 そのすべてをオルケスタ・リブレが新たなジャズの解釈でアレンジした音楽でまとめあげる。
 さらに、そこへ物語の案内役として講談師・神田京子が加わったことで、
 政治、経済ともに行き詰まった19世紀末のロンドンが、21世紀の日本にワープした。
 まさにタイムリーな内容の演目となっている。

オルケスタ・リブレ plays 三文オペラ

【三文オペラ】ビクトリア女王の戴冠式を控えたロンドンの裏町で、盗賊団の首領、権力者、最下層民、娼婦などがさまざまな欲をめぐって入り乱れる愛憎劇——。という1728年にイギリスで上演された『乞食オペラ』を素材に、1928年にドイツの劇作家ブレヒトが戯曲化し、クルト・ワイルがジャズの手法を用いて音楽をつけた音楽劇。人間が抱える矛盾を時にシニカルに、時にユーモラスに描いた『三文オペラ』は、戯曲のみならず音楽についても評価が高く、『モリタート』をはじめ今もスタンダードナンバーとして親しまれている曲も多い。



Orquesta Libre (オルケスタ・リブレ)
 2011年6月に東京の老舗ジャズクラブ、新宿ピットインのライブイベントをきっかけにスタートした芳垣安洋のプロジェクト。'60~'70年代のロックやポップス、演劇の音楽や映画音楽、ジャズチューンや民族音楽……と、さまざまなジャンルのスタンダードナンバーを異才ミュージシャン達が自由にアレンジするミニ・オーケストラ。『うたのかたち~UTA NO KA・TA・TI』『plays Duke』など、これまでに3枚のアルバムをリリース。

Info▶facebook
<https://www.facebook.com/orquesta.libre>



柳原陽一郎 (やなぎはら・よういちろう)
 1990年にバンド“たま”のメンバーとして『さよなら人類/らんちう』でデビュー。1995年にソロ活動をスタート。以降、日々の雑感を平たい目線で捉えた歌作りとライブを活動の軸としつつ、ジャンルを問わないセッションも精力的に行う。人の心の機微をファンタジーや言葉遊びに託した歌詞は特にユニークで、おおらかでペースを漂うボーカルとともに各方面より賞賛されている。これまでに9作のソロ作品を発表。2015年1月、デビュー25周年を記念して柳原陽一郎としては初のベストセレクション・アルバム『もっけの幸い』をリリース。
 Info▶Yananet <http://yananet.com/>



神田京子 (かんだ・きょうこ)
 1999年に講談師2代目神田山陽に入門。2005年に二ツ目、2014年に真打昇進。寄席への出演や独演会はもとより、オペラや義太夫など他ジャンルとのコラボレーションも数多く行い、幕末・明治のエンターテインメント性溢れる講談を目指す。また東北の仮設住宅で定期的に行われている夫の詩人・桑原滝弥との「夫婦ライブ」をおして、東北に伝わる民話の講談化もライフワークとしている。形にとらわれない活動は国際交流の一環としても注目される。
 Info▶公式ブログ「京子喫茶室」
<http://blog.kandakyoko.com>



松角洋平 (まつかど・ようへい)
 文学座を経て現在フリー。舞台を中心に活動しており映像やアテレコの世界でも活躍中。本公演の構成・高瀬久男氏の演出した「アラビアンナイト」(文学座本公演)で初舞台を踏む。主な出演作としては《舞台》「リチャード3世」「ヘンリー6世」「イロアセル」「舞台は夢」(以上、新国立劇場)、《映画》「The Flowers of War」チャン・イーモウ監督、《TV》WOWOWドラマW「変身」など。

2015 **6.27(土) 17:00 開演(16:30 開場)** 茨木市市民総合センター クリエイトセンター・センターホール
 茨木市駅前四丁目6番16号 ☎072-624-1726

【全席指定】 一般3,000円 / 65歳以上、障害者及びその介助者2,500円 / 青少年(24歳以下) 1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き(この取り扱いは財団のみです) *就学前のお子様はご遠慮ください。

3月28日(土) 9:00 予約開始

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。

■チケットのお申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00) / インターネットチケット www.ibabun.jp

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。

チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。

◎ユアアイホールチケットカウンター(9:00~17:00) ◎クリエイトセンターチケットカウンター(9:00~17:00)

*予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料金+郵送手数料400円)を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。

手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。(払込口座) 00970-7-190576 / 加入者名: 茨木市文化振興財団

■その他プレイガイド(初日店頭販売あり 10:00~)

ローソンチケット0570-000-407(オペレーター対応)・Lコード予約0570-084-005(Lコード57350)

*ローソンチケットの取り扱いチケットはローソン、ミニストップ各店舗で直接購入できます。

チケットぴあ0570-02-9999(Pコード256-692)

*チケットぴあの取り扱いチケットはサンクス、サークルK、セブンイレブン各店舗で直接購入できます。

